

近世 22.7-07-071



L 21802



發 稿

蹄跡の夜を寝る馬と数山の甲壳

二首春日

平練の僕が我々の士と試合のあはれ

三首春日

想懐の草履を穿てて詠の二人の上使

四首春日

響きの情ふまねの節唄へ必代の一曲

大 詠

奥庭の怪談へ太平詠本願の指

帝 幕

打落の額か思と越る言はの色情

引 如 し

根元の撃か橋と惟も春雨の傘

甲 幕

飯木の巻の巻へ浮もさ霧を雨笠

切 幕

糸衣の襦か刺善哉悪の口人の子

大 切

向遇の杖柄か実情を鏡を二人の甲

大まきり 藤文草

常盤津の藤大夫 常盤津の藤大夫 常盤津の藤大夫

廿二番目後人習名

廿三番目後人習名

Handwritten notes and smaller text in the left column, including names like 藤文草 and various annotations.

